

# カンガルーシップ活動 就労支援プロジェクト 実施報告書

報告日	平成 30 年 2 月 23 日
主管学校名	愛知教育大学附属特別支援学校
P T A 会長名	佐藤 元泰

実施概要	主管校	愛知教育大学附属特別支援学校
	交流校	
	実施活動名	進路に関する学習会
	実施日時	平成 30 年 1 月 15 日 (月)
	実施場所	本校くすのきホーム
	実施目的	本校児童・生徒の保護者が、進路にかかわる講話を聞くことで、児童・生徒の進路決定の際の参考に する。
	実施内容	本校児童・生徒の保護者を対象に、進路にかかわる講話をしていただける講師を本校に招き、講話を 聞く。
	実施方法	障害者の就労に関する業務に携わっている方の中から、話を聞いてみたい講師を保護者の声を参考に 決定する。そして、本校に招いて講話をしていただく。
参加人数	本校児童・生徒の保護者 47 名	

報告事項	内容	<p>保護者への事前アンケートをもとに講師を選定し、以下の計画で実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>講師 社会福祉法人 オンリーワン 相談支援 オンリーワン 相談支援専門員 杉本 直子 様</li> <li>進行 典礼・・・父母教師会会計監査 <ol style="list-style-type: none"> <li>はじめのことば・・・父母教師会書記</li> <li>父母教師会会長あいさつ</li> <li>講師紹介・・・父母教師会副会長</li> <li>講演：講師 杉本 直子 様</li> <li>質疑応答</li> <li>お礼のことば・・・父母教師会会長</li> <li>おわりのことば・・・父母教師会書記</li> </ol> </li> </ol>
	結果	<p>保護者の様々なニーズに応えられるように、講師の選定にあたっては、多機能型事業所の方を講師に 選んだ。そして、講師の杉本様からは、『ダウン症の娘との歩みの中で 心がけてきたこと』という演 題で、ご講演をしていただいた。(事前打ち合わせ有)</p> <p>ダウン症の娘の生い立ちを例に挙げ、具体的な取り組みと成長過程における苦労などを話していただ き、参観者は切実感をもって聞き入っていた。幼少期から就労に至るまで、時系列を追って説明され、 小学部から高等部の保護者すべてに関係する内容であった。</p>
	所感	<p>パワーポイントの資料を使って話をしてくださり、参加者にとって大変わかりやすい内容であったと 思う。映像資料を効果的に取り入れ、時間の経過がとても早く感じられた学習会であった。この日のた めに準備をしてくださった講師の杉本様に感謝するとともに、卒業後の生き方を考える上でも、進路に 関する学習会が貴重な機会であることを改めて感じた。</p>

添付書類	収支決算書, 領収書, 参加者の声 (保護者の感想), 写真
------	--------------------------------

就労支援プロジェクト（進路に関する学習会）



# カンガルーシップ活動 就労支援プロジェクト 参加感想

提出日	平成30年2月23日
学校名	愛知教育大学附属特別支援学校

## 【進路に関する学習会 参加者の感想】

- ・ 娘さんの話に共感しました。
- ・ エンジェルの活動をお聞きして、同じ悩みを抱える保護者の気持ちがわかりました。
- ・ NPOあさひキャンプに参加しての活動を聞いて、様々な体験活動をする必要性を感じました。
- ・ 学校へ親の思いを押しつけないことが大切であることを知りました。専門家の意見を聞くことが必要であることを知りました。
- ・ 性についての指導が参考になりました。裸でウロウロする恥じらいの思いは、家庭で教えていくものだと感じました。
- ・ 例え失敗しても公共交通機関に慣れることが大切であることを知りました。
- ・ 就労に向けて、アンテナを高くし、情報をつかむことがまずは大切であると感じました。
- ・ つながるところがないときは、親たちで連絡を取り合って友だちと会える機会を作る必要があると感じました。
- ・ 将来は、兄弟に頼らず、親にも依存せずに生活を送れるようになる必要であることが身にしみてわかりました。将来のことを考えるとどうしていけばよいのか迷うところですが、指針を示してくれました。
- ・ オンリーワンの事業を教えてもらい、うちの子どもをイメージしながら聞くことができ、参考になりました。
- ・ 高等部になると、情報機器をうまく活用できるようになることが必要であると感じました。
- ・ 親の思いを強く与えすぎるのは良くないことだとわかりました。
- ・ 様々な体験を通して成長していったことがよくわかりました。うちでも参考にして体験活動を重視していきたいと思いました。